

「テーマ名」 モノづくりに携わる者の倫理

(一社)東京技術士会 永田 一良

モノづくりに関係する企業の「製品安全」や「経営理念」に悖る事件が後を絶たないのは嘆かわしい限りである。事件を振り返ると、経営者や技術者の意識の下にある「モラルや常識」に起因することが多い。これらを「法と倫理」という形で「見える化」して研鑽する

1. はじめに・・・・・・・・東日本大震災に続く福島第一原子力発電所事故から最近の脱法ハープ事件などの身近な事例まで、その恐ろしさをリマインドする
2. なぜ今 倫理か?・・・・倫理学や教養の専門家の難解な教えはと別に、「他律的な法」と「自律的な倫理」を簡単な概念で捉え、意識の源泉である「モラルと常識」を高める
3. 企業と企業人の倫理・・・・メインに位置付ける部分である。「法の視点」と「倫理の視点」で4象限を作り、各象限毎に事例をもって解説する。各象限を理解することで、本人が不幸に、また家族や企業が破滅に陥ることがないようにガイドする
4. 企業人に求められるもの・・科学技術は人間が作った第二の自然と言われ、「正の効果」と「負の効果」がある。真の倫理観を身に付ける
5. 判断と行為・・・・・・・・欧米では、企業の経営者と技術者（従業員）は「敵対関係＝利益相反」の関係にあるとの考えもあるが、資源の乏しいわが国では別の視点が必要である
6. 技術者の倫理の体系・・・・技術に関する倫理の問題は、1900年初めから、実務に携わる技術者の間で体系化され始め、現在の体系が出来上がるのは1970年代に入ってからである
7. ISO26000の視点・・・・2011年にISO26000が制定され、経団連ではその企業行動憲章の中で「企業の社会的責任（CSR）を率先して果たす必要がある」としている
8. おわりに・・・・・・・・モノづくりの企業が、高い倫理観を持って業務に取り組むことで、企業の発展と共に持続可能な社会の発展に寄与することを願っている

.....
講師名：永田イチロー技術士事務所 永田一良

(略 歴) 1997年 日立エンジニアリング 代表取締役社長 2005年 退社
1995年 日立製作所取締役電機システム事業本部長
1961年 日立製作所入社 大型発電機・核融合・超電導・パワーエレクトロニクス・パワー半導体の設計・製作に従事、交通・昇降機・公共設備・空調設備の事業責任者を歴任

(専門分野) 技術士（電気電子/総合監理部門）、電気学会会員、日本機械学会会員

(著 書) 2003年 元気の出る中小企業経営（茨城新聞社）他

(講演経験) 2014年 企業と技術者の倫理とコンプライアンスシンポジウム（学士会館）他